

新基地建設反対名護共同センターニュース

玉城デニー事務所開き「オール沖縄」総結集



翁長氏の遺志継ぎ「夢と誇りある沖縄」へ
保守中道、革新、経済界が一体で団結！

知事選に出馬する玉城デニー氏の選挙母体「平和・誇りある豊かさ」ひやみかちうまんちゆの会」の事務所開きが31日、那覇市内で開かれました。冒頭、8月8日亡くなった翁長雄志前知事に黙とうを捧げました。

「ひやみかち」会長に呉屋氏就任

選挙母体の会長に金秀グループの呉屋守将会長（○写真中）、選対本部長には仲里利信前衆院議員（○写真右）が就任し挨拶。この日、辺野古埋め立て承認を「撤回」した沖縄県の富川盛武、謝花喜一郎両副知事も出席しました。

デニー氏「自分の姿勢と翁長知事の

信念合わせて『新時代沖縄』を」

玉城氏（○写真左）は「イデオロギーよりアイデンティティー。どんな手をつないで沖縄を平和な島にしよう。自然環境を大事に、あらゆる人を受け入れ、子どもたちが世界に飛び立つていく拠点にしていこう。翁長知事がつくろうとした沖縄は、そういう夢ある沖縄、誇りある沖縄の姿だった。自分の信念であるぶれない姿勢を翁長知事から受け取った信念と重ね合わせ、デニーカラーをつくり上げる『新時代沖縄』の姿に表わしていく」と支持を訴えました。

照正組、沖ハムの会長も参加

集会では赤嶺政賢衆院議員など「オール沖縄」の衆参国會議員、城間みきこ那覇市長など挨拶。県市町村議員、立憲民主党代表、労働団体、市民団体代表、経済界から照正組の照屋義実会長、沖ハムの長濱徳松会長らが参加しました。

また、知事選と同時選挙となる宜野湾市長選の仲西春雅予定候補、10月21日投票の豊見城市長選の山川仁予定候補が挨拶しました。

●玉城デニー選挙事務所のお知らせ

（平和・誇りある豊かさひやみかちうまんちゆの会）
〒902-0006 那覇市古島2-6-5 古島テラス
098-835-5065 FAX098-55066

「撤回」受け決意新た 県民集会に800人

玉城デニーさんに拍手と大歓声

オール沖縄会議は1日、第1土曜県民行動を開催し800人が参加。31日の埋め立て承認撤回を「翁長知事の決意と現場のたたかひの成果だ」と喜び、「さらに世論と運動で政府を追い詰めよう」と決意を新たにしました。知事予定候補の玉城デニー氏（写真）が登場すると、テントにあふれるほど集まった県民から大きな歓声と拍手、指笛が響き渡りました。デニーさんは「翁長知事の遺志を継いで新基地建設に反対する私の決意は1ミリも揺るぎません。知事選で必ず勝利するため、みなさんがデニーの分身になって力を貸してください」と力強く訴えました。

故翁長知事の妻・樹子（みきこ）さんが31日、埋立承認撤回を仏前に報告したと沖縄タイムス（1日）のインタビューで語り、多くの県民に涙と感動を広げています。詳細は本ニュースの付録（裏面）をお読みください。



「県民の諦めない心信じる」 妻・樹子さんが語る翁長前知事の最後の思い

8月8日に亡くなった前知事の翁長雄志さんの妻の樹子（みきこ）さん（62）は、9月1日付けの沖繩タイムスのインタビューで、名護市辺野古の新基地建設問題に対する前知事の思いなどを明かしました。



翁長樹子さん
（今年1月名護市で）

「撤回」を仏前に報告

撤回したと聞いて「あなたは自分の責任でやりたかったと言うでしょうけど、皆さんが遺志を継いで頑張ろうと立ち上がったくれたのよ」と仏前に報告しました。

翁長雄志は命懸けでした。若い頃は何を考えているのか、理解できないこともありましたが、亡くなって思うんです。政治家として追い求めてきたことは、ずっとつながっている。沖繩の人たちの心の一つにしたかったんだ、と。辺野古問題で悩むことが多かったでしょ。本人は亡くなる直前に言いました。「人がどう言うか、どう判断するか、分からない。でも知ってほしい。僕は精いっぱいやったんだ。これ以上はできない。それでも足りないだろうか。僕の力はそこまでだったんだろうか」と。私が「ウチナンチュだったらきつと分かるはずよ」と応えたら、翁長は静かに笑

っていました。

7月27日に撤回を表明し、30日に入院しました。肉体的にはとてもきつかったと思えます。ぎりぎりの状態で撤回の準備を進めていました。最後の記者会見、廊下の窓際に腰を掛けて休んだ理由を、外反母趾と答えたけど、あれは全然違う。

前日、県庁で最後の打ち合わせをして、公舎に「ただいま」と帰ってきました。玄関のいすで3分、廊下で3分、リビングで3分、寝室までの廊下でまた3分休んで、5分を歩くのに20分かかかる状況だったの。

「記者会見で自分の思いを伝えることができるだろうか」と私に聞きました。私は「できるに決まっていますじゃないの。何のために頑張ってきたの。あなたがやらないで誰がやるの」と背中を押しました。翌日、送り出して、記者会見で30分話し続けることができた聞いて、私は「神様ありがとう」と何度も繰り返しました。

私が背中を押した理由

背中を押したのには理由があるんです。撤回が現実味を帯びた頃、国から「一般職員にも損害賠償を求めろ」という情報が伝わってきたんです。翁長は「自分は政治家だから丸裸にされても、撤回をやる。でも一般職員を矢面に立たせるわけにはいかない」と、強く言ったんです。だから、あ

なたがやらないで誰がやるのって言いました。

最後に入院した時、一回だけ「苦しい」と訴えたことがあります。病室で車いすに乗ろうとしたときにバランスを崩して、私と二人で転び、私に苦労させていると思ったんだらうね。もたれかかるように「苦しい」と言いました。

死期を覚悟していたのか、恐怖があったのか。「この先、子どもたちに当たるかもしれない。その時は伝えてほしい。今のお父さんは本当のお父さんじゃないよ。自分で自分をコントロールできなくなっているんだよ」と言ったんです。でも、そんな必要はなかった。最後の最後まで子どもたちに当たるどころか、周りに気を使うお父さんでした。

県民が諦めれば 未来永劫 沖繩に基地

「県民が諦めなければ辺野古の基地は造られない」と翁長は信じています。県民が「しようがない」となれば、未来永劫沖繩に基地をおかれたままになる。それでいいのでしょうか。翁長は命を懸けて、そこを問い続けました。

ウチナンチュが団結したとき、私たちが考えている以上の力強さがあると次男が県民大会で言ったでしょ。本当にその通りだと思うんです。翁長は知事になってからずっと難しい顔をしてたでしょ。だから最後は見せてほしいと思った。翁長の本当の笑顔を。末っ子の甘えん坊の笑顔を。明るくよく笑う人だったんです。この4年間はほとんどみることがなかった。